

63

マーセラス・ローロン（またはラルーン） 『写生によるロンドン旧市の呼び売り』

Lauron, Marcellus. The cries of the city of London drawne after the life. London, Overton, (1711) 1733. 74 plates 19.3×30.0cm <383, 133-L>

Hiler p. 529 Colas 1793—94 Lipp. 1019 Beall E10

二枚の扉を加えると74枚のエッチングからなる初期「呼び売り」の大作である。作者は有名な18世紀イギリスの画家ホガース（Hogarth 1697—1764）と同じ時期に、しかも「ホガースの模倣者」とさえいわれる画家で音楽家で歌手で職業軍人という極めて多彩で気まぐれな人生を送った人物ローロン（Marcellus Lauron 1679—1772）もしくはラルーン（Laroon）である。

フランス人であった祖父のマルセル・ローロンは17世紀半ばにオランダのハーグに渡り、そこで結婚して生れた二番目の息子が、画家で同名の父親のマーセラス・ローロン（1653—1702）である。父は若くしてロンドンに移り、コヴェント・ガーデンにほど近いポー通りに居住し、画家ネラー（Godfrey Kneller 1646—1723）のアシスタントをするかたわら、セントポール寺院内のクリスツ・ホスピタルで肖像画を描いた。LaroonはLauronという姓の英語風綴りであり、同名の父親と区別するため、一般にはMarcellus the youngerまたはCaptain Laroonと呼ばれている。

兄をジョンズ、弟をマーセラスと呼んだ。マーセラスの絵に才能を見出した父親は、自分の手で指導するかたわら、ネラーの教室に通わせたが、やがてそこで教鞭をとるまでになる。同時代のホガース（William Hogarth 1697—1764）と交わり、また著名なフランスの画家アントワヌ・ヴァトー（Antoine Watteau 1684—1721）の訪英を機に、強く彼らの影響をうけた。一方、また数次にわたってヴェネツィアを訪れた彼は、オペラに魅了されたあげくは、自らも歌手として舞台に立つほどであった。また、スペイン継承戦争では、職業軍人としてマールボロー公の同盟軍に参加している。登場する呼び売りの一部を紹介すると以下のとおりである（番号は扉の1に始まる）。

6. マット売り 7. かごや 8. 小鳥や 12. インク売り 14. ほうき売り 16. 石炭売り
18. うさぎ売り 20. 煙突掃除 23. ミルク売り 24. バイオリンひき 25. 純白の酢, 1/4
オンス3ペンス 26. オランダ・ビスケット売り 29. チキン売り 31. 古着や 32. レモン
とオレンジ売り 33. いすの修繕 36. 古ぎれや 41. ナイフとくしとインクつぼ 43. おけ
や 47. 研ぎや 64. オランダの綱渡り女 69. こじき 等。（石山）



- c
- 11 ☒ a. Buy a fine table basket
b. Old cloaks suits or coats
c. Old satten old taffetu or velvet
d. Knives combs or inkhorns
- 1711年 ローロン作 →63

d